



## 京大教務掛めぐり

今日も京大探偵団に依頼が来た。「京大の教務掛ってどうなんですか？他の学部の友達からはあんまりいい評判を聞かないんですけど、うちの学部の教務掛はとっても親切なんですよ」ため息をつく先輩探偵。「幸せな人だねえ。それに比べてうちの学部は…」

「最近教務掛の評判って良くなってきますよね。昼休みも開いてたりして。学部によって違うものなんですか？」「自分で調べてくればいいじゃないか」「どうやって…？」「窓口で『ちょっとシラバスを見せてください』とでも言えばいいだろ」「はあ」

かくして、後輩探偵による教務掛めぐりが始まった。

まずは南からということで薬学部を目指す。ところが工事中で入口がどこかわからない。どうにか薬学部本館に入ってみると、かなり奥まったところにある教務掛を発見。その窓口には…閲覧用のシラバスが置いてある。何も声をかけずにすごすごと退散する探偵。

次は医学部。たくさん校舎があるため調査は難航するかと思われたが、案内板に「教務掛」と明記してあるため無事に発見できた。

「あの、シラバスを見せてほしいんですけど…」

「シラバスは公開していません」あっさり返答され、またそそくさと校舎を後にする。

この二学部ですっかり意気消沈してしまった探偵。しかし途中で投げ出すわけにもいかない。法学部までやって来た。「シラバスを貸してください」

「はい、どうぞ」

白いシラバスを差し出すその対応は、いたって無難なものであった。続く経済学部では学生証の呈示を求められたが、普通に対応してくれた。

その他の学部でも対応にそれほど大きな特徴はない。結局わかったのは学部ごと窓口小さな個性があるということと、京大構内が広いということだけだった。

「先輩、どこの学部も対応は悪くありませんでしたよ」

事務所に帰り、先輩探偵に報告する。

「そうか？うちの学部では期限に遅れた履修届受け取ってくれなかったぞ」

「…それは先輩が悪いんじゃないですか？」 (はびねず)

※調査結果は11月下旬のものです

